



たいじょうほうしん 帯状疱疹

帯状疱疹は、水ぼうそうと同じウイルスで発症する皮膚の病気です。左右どちらかの神経に沿って、痛みを伴う赤い斑点と水ぶくれが帯状に生じます。体幹にできることが多いですが、顔面特に目の周りにできることがあります。

加齢・疲労・ストレスなどによる**免疫力の低下が発症原因**となります。



50歳代から発症率が高くなり、80歳までに3人に一人が発症するといわれております。

診断は臨床経過で比較的容易につきますが、発症初期は皮疹が出現せず、なんとなく眼周囲の違和感で受診する方もいます。

治療は**抗ウイルス薬**や**鎮痛剤**を内服し、十分に休養することで回復していきます。ウイルスは完全に除去されるわけではなく、**再発**することがあります。

現在、**ワクチン**が開発され接種可能で、発症予防や重症化を防ぐ効果が期待されています。

帯状疱疹の眼合併症

帯状疱疹が眼内で悪さをすると場合によっては重篤な症状になることがあります。

【角結膜炎】

帯状疱疹ウイルスが直接、角膜に炎症を起こすことがあります。眼軟膏を用いて治療しますが、重篤になると角膜に混濁を残し、視機能低下になることがあります。

【虹彩毛様体炎】

帯状疱疹は炎症が強く起こる病気です。眼内に炎症が及ぶと虹彩炎を発症します。治療にはステロイドを用いた消炎が必要になります。

【急性網膜壊死】

眼科領域で失明に直結する可能性のある要注意な疾患です。ウイルスによる侵襲で網膜に強い炎症を起こし急速に壊死して、重篤な視機能障害に至ります。

LINEお友だち登録

11月30日現在で
312名の方にお友だち登録をしてもらっています。

